

## 指定管理者評価シート

### 一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市上野山児童館
2 指定管理者	公益財団法人仙台ひと・まち交流財団
3 指定期間	平成29年4月1日から令和4年3月31日まで
4 施設の利用状況	《利用者数》16,637人（前年度比 68.2%） 令和元年度 24,405人      平成30年度 24,826人      平成29年度 25,635人
	《事業》 児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業
5 収支の状況	《費用》 （ ）は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用      38,357千円      （ 35,711千円） ・ その他市が負担した費用      0千円      （ 0千円）
	《収入》 ・ 使用料収入      0千円      （ 0千円） ・ その他収入      0千円      （ 0千円）
6 利用者の声	《実施状況》 利用者アンケート、児童館運営懇談会、児童クラブ保護者懇談会を実施。

### 二 管理運営に係る評価

（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議、チェックシート等で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	30/30
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	23/23
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行、ホームページの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、子ども達が安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境の整備と安全面の配慮が行われており、家庭や学校と情報共有を図り連携した育成支援に努めている。また、昨年度より、コロナ禍のために縮小している乳幼児向けの交流の場を工夫するなど、子育て家庭を支援するとともに、子育て支援クラブをはじめとする地域組織・団体・住民・関係機関との連携、相互交流を図りながら児童館の運営に取り組んでいる。	18/18

### 三 評価総括

#### 《指定管理者（公益財団法人仙台ひと・まち交流財団）による自己評価》

館のスローガンとして「笑顔かがやく上野山児童館を」掲げ、コロナ禍にあっても利用者の誰もが笑顔になれるような取組を行ってまいりました。

様々な活動が制限されましたが、児童クラブの児童がストレスを感じることなく意欲的に活動できるよう工夫してきました。なかでも「こども会議」は、子供たちが自主的に考えた日常の係活動や子供企画の行事を継続的に行いました。子供たちに、活動の仕方や行事内容を決めさせることで、満足感が得られ次の活動への意欲につながりました。また、年度途中でコマ回し大会やめんこ大会、モルック大会等を新たに企画し、行事の充実を図りました。活動や行事の中で、縦割りグループ編成を取り入れ、子どもたち同士の繋がりがや連帯感を強めることができました。

6月から乳幼児の自由来館や行事を始め、「サーキットタイム」「プラレールタイム」等遊びの場を設定しました。他の親子利用施設より遊びの場が充実していることから、利用する乳幼児親子が徐々に増加しました。乳幼児親子行事「ハロウィンを楽しもう」や「ひな祭り会」等の行事は、人数制限を設けましたが、多くの乳幼児が集まり、イベントや伝統行事を楽しむことができました。子育て支援クラブの見守り支援を受けて行った「親子ヨガ」等は好評で継続的に参加したいという声も多く聞かれました。近隣の児童館を併用して利用している親子もあり、今後近隣館との行事の調整により、更に乳幼児親子の居場所づくりに貢献できるものと思われまます。

年度後半には、お話の会や語りべの会、将棋デー等では、地域の講師を活用できたので、子どもたちにとって特別感があり、楽しみな行事の一つになりました。和太鼓「飛竜の会」は、市民センターと縄文の森広場の行事での発表にとどまりましたが、子どもたちの演奏技術が向上し、地域から今後の活動に対する期待が更に大きくなってきています。

#### 《施設設置者（仙台市）による評価》

#### 総合評価

令和2年度は、コロナ感染症の影響で緊急事態宣言が4月に発令され、小学校が5月まで休校となったが、休校中も児童クラブの受け入れを行った。この間、乳幼児親子の自由来館及び小学生の自由来館を休止していたが、その後、乳幼児親子の自由来館は6月から平日午前のみ再開し、小学生の自由来館は10月から土曜日のみ再開した。感染症対策のための参加人数の制限や環境の工夫を行うなど様々な配慮と努力を要した児童館運営となった。

子育て家庭支援事業においては、週1回「サーキットタイム」や「プラレールタイム」など自由来館者向けに好きなおもちゃで十分に遊べる場を設定し、乳幼児向けの「すくすくタイム」では、季節の工作や遊びなど乳幼児親子向け行事を取り組み、子育て支援クラブの共催では、メディカルアロマや大人ヨガなど子どもの託児や見守り付きで開催し、保護者が安心して参加してリフレッシュできる場を提供している。近隣の保育所の支援室を利用している親子も多いので行事の日程を調整しながら、乳幼児親子の視点で利用しやすい環境作りに努めている。

放課後児童健全育成事業においては、地域のボランティア講師の方に「将棋デー」や「オセロデー」、「お話の部屋」で遊びを支援してもらい、めんこ大会、コマ回し大会、ニューススポーツの大会など様々な行事を館として取り組んできて、子どものたちの遊びへの意欲を高め、様々な遊びへの興味関心を広げる工夫をしている。また、子ども達が自分たちで遊びや生活を考えて進めていける場として「子ども会議」を定期的に開催し、日々の係活動や行事の企画運営を子ども達が自ら進めていけるように支援してきている。係活動では「いきもの係」から「おたすけ係」「保健係」など活動内容も子どもたちで決めて意欲的に取り組むなど集団活動を通して自主性や社会性、自ら考える力を育んでいる。

S

### 四 その他特記事項

#### 特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：子供未来局子供育成部児童クラブ事業推進課